



「さあ探検へ出発」と元気に走る出演者の子どもたち



まずゴミ集積所から取材スタート



インタビューにも挑戦しました

マスクをして選別作業を真剣に見学



現場で撮影やインタビュー

小学生がゴミの行方を探検 子どもものじろから環境教育を

「環境」といっても、あまりに大きな課題で、自分自身にかかわることとして意識することはなかなか難しいかもしれません。そこで、最も身近なゴミの分別と減量化、リサイクルの推進をまずまず啓発していくために、誰にでも分かりやすく理解できるおとなビデオ・DVDを制作し

ました。出演したのは、児童文化センターの夏休み環境教育講座に参加した小学生十四人。子どもたちが自ら調べ、現地取材し、話し合っていく過程を通して環境問題を学びました。ここでは、暑さにも負けず、頑張った子どもたちの取り組みについて紹介

します。まず、参加者はペットボトル班、プラスチック容器班、空き瓶班の三つに分けられました。ゴミ集積所から取材を始め、市内の清掃工場だけでなく県外の処理施設なども訪問。子どもたちがカメラ撮影や関係者のインタビューなども行い、それを三十分の映像に編集しました。ペットボトル班は、まず大渡町一丁目のペットボトル選別処理施設で異物を取り除く選別作業を見学。キヤップ外しも体験しました。その後、ペットボトルは塊にして栃木県南河

内町の処理施設へ運搬。細かく裁断して洗浄後、フレイク状に処理され、衣服やトレーなどに生まれ変わる様子を取材しました。プラスチック容器班は、荻窪清掃工場へ。異物を取り除いた後、容器を圧縮・梱包し、千葉県君津市の製鉄所へ運びます。千二百度の高熱で分解し、工場で利用するコークスやガス、プラスチックの原料になる炭化水素油などになる過程を学びました。空き瓶班も各集積所から運ばれた瓶の行方を追って荻窪清掃工場を取材。職員の手で一つ一つ異物を取り除き、無色、茶色、その他の色の三つに分けてから埼玉県熊谷市の施設へ。空き瓶はほとんどが再利用でき、瓶に再生するだけでなく、道路の反射材などにも使われています。特別番組で放映し教材にも

1人1人が まずは できることから

「環境都市宣言」では、市民一人一人がゴミの減量やリサイクル、自然環境の保全などに自ら取り組み、人と自然が共生する環境・文化都市をつくることなどがうたわれています。雄大な赤城山、清らかな流れをたたえた利根川、広瀬川など豊かな水と緑に恵まれた環境は、わたしたちの大切な財産です。これを次世代へ引き継いでいくことは、今を生きるわたしたちの責任ではないでしょうか。市では、市役所をはじめとする市有施設から二酸化炭素などの温室効果ガスを減らす取り組みを計画的に

進めています。また、グリーン購入という事業で、市で使用する物品は環境に配慮した商品を使用。紙や文具、OA機器、公用車などの十分野・百二十一種目を定め、基準適合品がない特別な物を除き、ほとんどの物品で徹底されています。市内の事業所では、事業活動で排出される汚水や排気、ゴミなどによる環境への影響を最小限に防ぐ努力をすることにも、従業員みなで地域などの環境美化運動に取り組む企業や会社があります。市民・事業者・行政が互いに協力

し合い、地球に優しい循環型社会を築いていくために、それぞれの立場で始めてみましょう。また、市の環境基本計画、一般廃棄物処理基本計画について、パブリックコメントを実施します(16 参照)。計画の目的を着実に実現できるよう、皆さんの率直なご意見をお寄せください。みんなが毎日の暮らしの中で、環境に配慮した生活を送る習慣を付けることが大切です。わたし一人から関係ないのでは」と考えるのではなく、「自分でもできることがある」という気持ちで、今日から実践してみませんか。

太陽光発電装置を今年四月、自宅一階の屋根に設置しました。地球環境の保全にもつながるので前から興味はあったのですが、市の補助金が受けられると知り合いの電気工事店主から聞き、導入を決

太陽光発電設置で 家族も節電心掛け

公田町・石原久之さん



めたんです。五人家族の電気消費量と装置の発電量のバランスを考えて、百三十の太陽光モジュールパネルを三十一枚取り付け、昼間の余剰電力は売電しています。本市は日照時間が長いので、設備投資は十八年ほどで回収の予定。まだ、使い始めて半年間余りのデータからの算出なので、実際には、もう三年くらい早く達成できればいいなと思っています。停電時や落雷にも機械が自動的に対応してくれるので、手間もかからず補修費用の心配もありません。家族も以前より、電気の使い方に気を配るようになり、こまめにスイッチを切るなどさらに節電に心掛けるようになったことも、良かったことの一つですね。



ゴミを減らすのは わたしにもできる

住吉町一丁目・原沢翠さん

普段から家のゴミ出しを手伝っています。集積所に分別されているゴミが多く混じっているのが気になってきた。だから、ゴミについてもっと勉強しようと思って、環境教育講座に申し込んで、プラスチ

ック容器班に参加。初めは言葉の意味が分からなかったけれども、どんなゴミがこれに当てはまるのか調べてみたかったので選びました。実際の取材では、ゴミを県外まで運んでリサイクルしていることや大変な手間とお金をかけて処理していることが分かり、びっくりすることばかり。プラスチックを加熱して燃料のガスなどを作り、再利用までしているんですね。いつも食べているお菓子の袋にもプラマークの付いた物がいっぱい。ゴミの分別などわたしでもできることから始め、友だちにも声を掛けていけたらいいなと思っています。いつまでもきれいなまちに住みたいから。